

令和2年4月より、附属病院が 「地域がん診療連携拠点病院（高度型）」に指定

横浜市立大学附属病院は、このたび神奈川県「地域がん診療連携拠点病院（高度型）」に指定されました。（指定期間：令和2年4月から3年間）

「地域がん診療連携拠点病院（高度型）」とは、地域がん診療連携拠点病院[※]に指定されている病院のうち、診療機能等が高い医療機関として厚生労働大臣が適当と認めた病院で、がんの医療圏（神奈川県では2次医療圏と同一）毎に1カ所のみ指定されるものです。令和2年4月1日時点で、全国で47病院が厚生労働大臣より指定となります。

当院は、今後も引き続き、横浜医療圏におけるがん診療の拠点として、高度で安心・安全ながん診療を提供していきます。

【「地域がん診療連携拠点病院（高度型）」の指定要件（抜粋）】

- ・診療実績が当該医療圏において最も優れていること
- ・強度変調放射線療法や核医学治療等の高度な放射線治療を提供できること
- ・緩和ケアセンターに準じた緩和ケアの提供体制を整備していること 等

※ 地域がん診療連携拠点病院

質の高いがん医療を提供できるよう、都道府県知事からの推薦に基づき、厚生労働大臣が指定した病院。がんに関する医療や設備、情報提供、他の医療機関との連携などについて国の定める基準を満たしている。

<横浜市立大学附属病院における代表的ながん診療>



高精度照射が可能な放射線治療

（横浜初・動体追跡機能搭載リニアック）

患者さんの呼吸等体動に合わせて腫瘍部分にピンポイント照射。正常組織の被ばくを最小限に抑えます。



安全かつ専門性の高いがん薬物療法

（化学療法センター）

専門医と連携した免疫チェックポイント阻害薬使用例の全例モニタリングなど、安全な治療を提供します。



低侵襲なロボット支援下手術

（ダ・ヴィンチ）

2月末よりダ・ヴィンチを2台体制に強化。より多くの患者さんに低侵襲手術を提供していきます。